

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 32

2012年4月発行

新年度がスタートしました。

今年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

3団体合同企画＊ぼっちゃん+ダッカーリング

自立生活センター・あるる + 大工大ボランティア教育研究会 + ほうぷ

2012年3月2日(金)17:00~19:00

会場：大阪市立都島区民センター ホール

参加者：30名

2011年度も、自立生活センター・あるると大阪工業大学ボランティア教育研究会と一緒に3団体合同企画のイベントを開催しました。今回は、「ぼっちゃん」と「ダッカーリング」（ダーツとカーリングを組み合わせたようなゲーム）の2種目を行いました。「ダッカーリング」のボール(?)は、紙を丸めた手作りです。ゲームの準備、賞品の買い出しなど、大工大やあるるのみなさんには、お世話になりありがとうございました。[ほうぷ]からは、女子高生3名と保護者が参加しました。[ほうぷ]の参加者はほとんどが「ぼっちゃん」も「ダッカーリング」も初体験！ 聞くとやるとでは大違い？ ルールは簡単そうなのに、やってみるとハマってしまう？ 子どもと保護者は、それぞれ別のグループに分かれてゲームをしました。みなさん、日頃のストレス解消とばかりに、おおいに盛り上がりました。年齢もさまざま、障害もさまざま、毎回、いろんな出会いのある3団体合同イベントです。

次回は、みなさんも、ぜひ、ご参加くださいね！



『未来に向かってチャレンジ』事業 報告

【大阪ガスグループ“小さな灯”運動「子ども支援市民活動助成プログラム」助成】

2011年度は、障害をもつ中高生を対象に、自立に向けた支援として、自立生活の基盤となる〈すまい〉〈しごと〉〈クッキング〉にかかわる体験の幅を広げるような活動の機会を創り、個別の活動とグループ活動を行いました。あわせて、保護者を対象にして、子どもの自立に向けた意識を培えるような研修会を開催しました。

活動の都度、会報に報告してきましたが、以下に全体の報告をさせていただきます。

■目的

- ① **自立への支援を行う**—障害者の多様な暮らし方を知ることによって、将来を考える機会をもつと同時に、体験の幅を広げながら自分らしく暮らすための一歩を踏み出せるようにする。
- ② **社会参加をすすめる**—ボランティアとともに活動することによって、家庭外や学校外で人とかかわる機会を増やし、地域のなかに活動の場を創る。また、グループ活動を通して仲間づくりをはかる。
- ③ **保護者への支援を行う**—保護者同士、あるいは、保護者と障害当事者とのつながりをつくと同時に、障害者の多様な自立観を知ることによって、子どもの自立を考える機会をつくる。
- ④ **サポートネットワークを構築する**—地域の団体や住民と連携・協力することによって、障害をもつ子どもの自立について地域社会の理解を促しながら、子どもを支えるネットワークを構築していく。

■協力（順不同）

自立生活センター・あるる、自立生活センター・おおさかひがし、出発のなかまの会、さかえ会、北部地域障害者就業・生活支援センター、大阪市旭区役所、大阪市旭区社会福祉協議会、旭区自立支援協議会、大阪工業大学文化会ボランティア教育研究会、大阪市立旭図書館、北部方面公園事務所（扇町公園）、花博記念公園事務所（園内施設）、牧老人保健施設、ボランティア、地域住民など

■運営方法

自立生活センターや公的機関などの職員、保護者、支援者で構成する運営委員会を設置して、さまざまな立場の人の視点や強みを活かしながら、活動方法について検討を重ねた。また、地域のさまざまな機関・団体に協力を依頼し、地域連携を図るようにした。



■実施内容

(1) チャレンジ体験Ⅰ・すまい

①グループホーム・すまい見学会 (子ども・保護者・支援者 のべ44名参加)

日 時：2011年7月、2012年1月

内 容：出発のなかまの会グループホーム（大阪市生野区）の見学、さかえ会グループホーム（大阪市旭区）の見学、自立生活をされている障害当事者の自宅3か所（大阪市旭区・都島区・城東区）を訪問

②「すまい」研修&交流会 (講師9名、子ども・保護者・支援者 計21名参加)

日 時：7月27日(水) 13:30~16:00

会 場：大阪市旭区（大阪市立城北市民学習センター 研修室2）

内 容：障害当事者や支援者を講師に迎えて話を聴き、質疑応答と意見交換

(2) チャレンジ体験Ⅱ・しごと

①「しごと体験」 (子ども のべ37名・サポーター のべ42名参加)

・受け入れ先：旭区内の民間企業、福祉施設や公共機関、近隣の大型店舗、公園事務所等を訪問して受け入れ先を開拓。実際の受け入れ先は、旭区役所、旭図書館、旭区社会福祉協議会(事務所とディサービス)、老人保健施設、扇町公園、花博記念公園(乗馬苑・生き生き地球館・咲くやこの花館) 等の9か所。

・「しごと体験」活動日数：のべ27日間(8月~12月)

②「しごと体験」報告&交流会 (子ども・保護者・支援者・サポーター 計28名参加)

日 時：12月23日(金・祝) 10:00~12:00

会 場：大阪市旭区（大阪市立城北市民学習センター 研修室3）

内 容：しごと体験を記録したスライドを見ながら報告を行い、感想を共有

(3) チャレンジ体験Ⅲ・クッキング

①お弁当に何入れる？ (子ども・支援者・ボランティア のべ29名参加)

日 時：8月20日(土)13:30~15:00, 8月27日(土)11:00~15:00

会 場：大阪市旭区（大阪市立旭区民センター集会室3, 旭区在宅サービスセンター多目的室）

内 容：子どもがそれぞれに自分が食べたい「お弁当」の献立を検討

②お弁当をつくろう！ (子ども・支援者・ボランティア 計27名参加)

日 時：11月23日(水・祝) 11:00~15:00

会 場：大阪市旭区（大阪市立旭区民センター 調理実習室）

内 容：各自が考えた「お弁当」の献立をもとに、食材を買って料理

(4) 障害をもつ子どもの保護者研修会

(講師3名、保護者・支援者・ボランティア 計24名参加)

日 時：11月23日(水・祝) 11:00~15:00

会 場：大阪市旭区（大阪市立城北市民学習センター 研修室1）

内 容：先輩保護者を講師に迎えて体験談を聴き、質疑応答と意見交換

■活動報告について

運営委員会にて活動の振り返りを行いました。2年間の活動をまとめた冊子を発行しました。関係団体や地域の皆様方への報告会&学習会を6月に開催します。(次頁参照)

「はじめよう！『自立生活プログラム・子ども版』」発行しました

2年間重ねてきた実践を冊子にまとめました。障害児の自立に向けた支援のひとつとして参考にしていただければ幸いです。また、ご意見やご助言をいただければありがたいです。以下、6月16日の集会で資料としてお渡しします。

送付ご希望の方は、

下記の①か②のいずれかの方法でお願いします。

- ① 氏名、送り先住所、電話番号かメールアドレスをご記入の上、切手(1冊210円)を同封して、[ほうぷ]までお送りください。
- ② 郵便振替にて賛助会費を振り込んでくださる場合は、払込取扱票の[通信欄]に「報告冊子希望」とご記入ください。氏名、送り先住所、電話番号を必ずご記入ください。



●参加者募集●

「自立生活プログラム・子ども版」実践報告会&学習会 障害をもつ子どもの自立に向けて ～「地域」で暮らし続けるために～

ほうぷでは、一昨年から、障害をもつ中高生の自立に向けた支援に取り組み、「すまい・しごと・クッキング・おしゃれ」の活動を行ってきました。活動のようすや課題を報告し、地域においてどのような理解や工夫が必要とされているか、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。また、西成区のプレジヨブのお話もさせていただきます。関心のある方はどなたでもご参加ください。

◆日時：6月16日(土曜日)

13:30～16:00

◆会場：城北市民学習センター講堂

(大阪市旭区高殿 6-14-6)

●資料代：500円

●定員：50名

●申し込み締切り：6月10日(日)

定員になり次第締めきります

●お申し込み方法：お名前・連絡先(住所・電話番号)を下記へ

ご連絡いただいた情報は、[ほうぷ]との連絡にのみ使用し、それ以外には使用しません。

●お問合せ・お申し込み先：NPO法人 地域生活サポートネットほうぷ

Tel・Fax 06-6953-2655 E-mail houpu@river.sannet.ne.jp

(お申し込みは、FAX、または、メールにてお願いします)



「音楽広場」報告

ほうぶは、設立時から「音楽広場」の活動を行ってきました。「音楽を楽しみたい」という障害をもつ子どもは多くいますが、自宅で音楽を聞いたり歌ったりして楽しむことや、障害児を対象とした音楽療法に通うことが多いのではないかと思います。学校での音楽の授業は、友だちと一緒に合奏や合唱を楽しむ大切な時間ですが、個人のペースで楽しむことはなかなかできません。子ども一人ひとりが主体的に音楽を楽しむことができる、そんな「音楽広場」の活動ができたことを本当にうれしく思っています。

この春、「音楽広場」の活動にピリオドを打ちました。広場終了後も、「障害をもつ子どもが音楽を楽しめる場はありませんか？」と、相談の電話がかかってきます。「音楽」をそれぞれのペースで主体的に楽しむことができ、心が豊かになるような時間を過ごす場を求めている子どもたちが、気軽に利用できる場をどう作っていくか、やってくる子どもたちが「たのしい〜！」とを感じるためにはどうしたら良いのか、悩み続けた8年間でした。この「気軽に」はとても重要なのです。しっかりと身構えて参加しなければならない場や時間は、余暇ではなくなるからです。「高いお金を払うからには成果がなければ」なんて思われるようでは、子どもは楽しくなくなります。私たちは、訓練や療法を提供したいわけではないのです。「音楽療法」ではなく「音楽広場」をするのだという、こだわりがありました。活動の場は、市民学習センターのスタジオ、私立保育園の保育室、市民交流センターの講堂と移り変わりました。講師2人体制で行なうので、ずっと同じペアで続けることも困難でした。時として、子ども達の負担になったと反省しています。そんな綱渡りのような活動を続けることができたのは、講師の熱意や保護者の方々の強い想いに応えなければという思い、そして何より、毎月心待ちにしている子ども達の楽しそうな様子でした。助成金頼りの小さな当NPO法人が、大きな費用のかかる活動を継続することの難しさも痛感しています。課題が解決できないまま、「音楽広場」は終了します。子どもたちが成長し、一区切りしますが、これでオワリなのではなく、みなさんの思いを受けとめて、課題に向き合い続けなければならないと思っています。いつか、音楽を楽しめる場を安定的に提供できればと思っています。

8年間の「音楽広場」の活動を支えてくださった皆さまに感謝し、心からお礼を申し上げます。そして、改めて、今後どうぞよろしくお願い申し上げます。

2012年3月11日 [音楽広場] 修了式&交流会を開催しました。

◎講師から♪

<あゆみさん>

最初、身近な社会資源の場として、音楽で役立てることはないかという、思いつきにも似たような発想が、音楽広場となって芽吹きました。出会った子ども達からは、言葉ではっきりと何かを言われるわけではありません。でも、正直な皆からの表情や、「この時間は自分の時間なんだ」という、確信をもったふるまいから、たくさんのエネルギーや勇気、メッセージをいただくことが出来ました。

音楽広場は、私自身、社会人としてのスタートと同時に始まった活動でもありました。至らないところもいっぱいありましたが、皆さんの支えのお陰でこんなにも続けることが



出来ました。たくさんの方に大切に想っていただいた、奇跡の8年間だったと思います。そして、子ども達の、一番きらきらと成長する時期と一緒に過ごさせていただけて、本当に感謝しています。”音楽広場”という企画は修了となりましたが、末広りの8年にあやかかって、関わってくださった皆さんにとって、広場の存在がこれからへの何らかのきっかけとなることを、心から願っています。私自身も、出来ることを引き続き模索していきたいと思っています。心から、ありがとうございました。

<りんこさん>

私の少ないボキャブラリーでは表せないほど、微妙な感情からハッキリとしたものまでいろ～んな気持ちが生まれ出てきました。とにかくあの時間は、感じ合うこと。意識的に感じ合うこと。知識として記憶されている言葉の枠にハマられないような、何とも言い難いポジティブな感じを味わえたらお互いラッキーやな☆という想いでいました。通じ合っている時はもちろん、通じ合っていないこともオンタイムでコミュニケーションしていく音楽ってやっぱりオモシロいです。

楽しかったらそんで十分!

このよく聴く言葉を本気で体感するために、私は広場のみんなに惹かれて、この感謝の2年を過ごしてきたのだと思います。またご縁がありますように…

なんかいいやん♪

もうちょっとふんばってみよ!

ちよっとちゅうみたいやなあ…

さすがやん!やなあ!

ほっこりするねえ～

もう1回やってみようさ!

◎保護者の皆さんから♪

- ☆ 歌が大好きな息子が、大喜びで参加した日から早や8年も過ぎようとは、本当に驚いています。最初は思いもよらなかったのに、今では楽しそうに歌いながら、踊り、演奏もして、身体全体で音楽を満喫しています。8年間という年月の積み重ねに感謝しています。そんな広場がお休みされるのはとても淋しく残念です。いつかまたこのような企画を出して頂けますよう、心からお待ちしておりますのでよろしくお願いします。
- ☆ 息子の様子を見ながら、ピアノで語りかけ奏でる人と、息子と同じ目線でサポートしてくださる人という、2人1組での楽しい音楽広場が始まりました。けれど、息子は、どう楽しめばいいのかわからず、走り回る、勝手に動き回るという状態でした。そんな息子に、ゆっくりと時間をかけて音楽を通してコミュニケーションを取っていただきました。そして、見たこともない楽器をいっぱい並べて触れさせてくださいました。初めはどうしたらいいのかわからず、投げてしまうことも多く、壊してしまったこともありました。気長に関わってくださる中で、少しずつコミュニケーションが取れ出し、音楽に反応するようになってきました。そして、8年経った今、しゃべれない息子ですが、身体でリズムを取って、身体じゅうで歌うようになりました。楽器を大切に扱うことができるようになりました。打楽器を奏でることができるようになりました。手拍子をするようになりました。一緒に歌おうと誘うようになりました。音楽を楽しむことができるようになりました。音楽を感じられる心を育てていただいて、本当に感謝しています。
- ☆ 8年間…8年も経ってた?!と感じるくらいあっという間だったような、でも、もっと長

い年月をすごしてきたような、そんな感覚になる、大切な音楽広場の時間でした。娘も私ものんきに楽しんでいただけで、講師の方々は、とても大変なことがいろいろあったでしょうが、そんな素振りとは全く見せられず、いつも変わらぬ笑顔で迎えてくれて、曲の世界にどっぷりとつかりたがる娘に根気強〜く付き合ってくれました。娘にとっては、他では出来ないオリジナルな音楽の時間で、それはあゆみさんたちだったから汲み取ってもらえて出来ていた活動だったと思います。「もう次はないのね」と思うと寂しいですが、素敵な思い出がたくさん作れた音楽広場が出来てよかった気持ちでいっぱいです。これまでの活動の振り返りの広場通信のプリントは、これからも宝物です。

- ◇ 音楽広場に通り始めた8年前、自転車の後ろに乗せていた小学生の息子が、今は一人で電車を2回乗り継いで通える高校生になりました。当初は、音楽に結び付くのか？と疑問に思う程、集中できない息子でした。家を出るタイミング、始まる時間、部屋の環境…様々な課題にぶつかりながら「それでも彼は音楽を聞いて、身体いっぱい表現しています」という講師の先生の言葉に励まされた8年間でした。その言葉通り、最後の1、2年は息子のリズムで音楽を楽しむ姿が見られるようになりました。これも音楽広場を続けて頂けたことで成長できたことだと思っています。学年が上がる度、通える場所が少なくなりつつある中で、8年間気長に見守り、寄り添って下さった講師の先生方が大きな支えでした。また、毎年格闘しながら(!?)音楽広場を続けて下さったほうぷさんに感謝しています。終わってしまうのが、今も残念で仕方ないです。
- ◇ 毎月の楽しみでした。息子は言葉では表せませんが、大好きな事、嫌な事、はっきり解る豊かな表現力があります。最後の交流会で見せていただいた5年前の写真、あどけなさが残る息子が写ってました。どこにも行く場所がなく 外出といえば病院とリハビリでした。月に一度の音楽広場は、「生」で奏でる楽器や歌声、お腹にまで伝わる振動、親子共々癒された時間でした。不思議なことに広場の後の息子は、無呼吸発作がなかったのです。いつも時間がたつにつれ、思いだし笑い…。「僕、楽しかったの」と教えてくれているのでしょうか。そして、ヘルパーさんとの外出も初体験でした。あゆみさんは息子の気持ちに寄り添い曲を選んでくれました。時には、ヘルパーさんも巻き込み、みんなで共有できる、言葉はなくても心で通じあう、音楽が繋げてくれる素敵な時間をくれました。りんこさんの印象は、明るくてピュアな方、でした。交流会、最後の日に、挨拶で泣きながら、話されているのを見て再確信しました。最後になりましたが、音楽広場で出会えた方、そして、繋がりを大切にしたいと思います。

この春、大阪は教育問題で揺れています。国歌斉唱で騒がれた卒業式の季節が過ぎ、新年度が始まると、公立小中学校の学校選択制、中学校給食、また、公立高校の統廃合など…。校区の学校に通えない辛い状況にある子どもが他校区の学校に通えるようにという配慮ならば良いのですが、学校の特色や能力って…。大阪では校区の学校で色々な子どもたちがともに育ちあってきたのに…。また、定員内の高校だからこそ通える子どもたちがいるのに…。「この学校がなくなったら行くところなくなる〜」と、ある高校生が嘆いていました。ホントに疑問だらけです。子どもの思いがきちんと受けとめられることなく、子どもに寄りそう教師の意見も受けとめられることなく、政治主導で「教育」が方向づけられているように感じます。

